

平成17年度道路環境センサスデータ一覧表

下表は、平成17年度道路環境センサスとして直轄国道で行った調査結果を調査地点別に表示したものである。

騒音の新環境基準との比較は、全ての調査地点を対象に行っているが、調査地点において環境基準の類型指定がなされていない場合は、超過・非超過の状況を（ ）付きで表示した。

表示順位は、都府県支庁指定市別、路線番号別、調査単位区間番号の順で並べた。

「－」は入力データが無いことを示す。

環境基準、要請限度超過・非超過状況
○：非超過
×：超過
()：環境基準類型指定または騒音規制区域指定の対象外
環境基準：昼間70dB 夜間65dB
要請限度：昼間75dB 夜間70dB
(7～10欄)

車線数は、併設道路を含む。(13欄)
環境基準類型、騒音規制区域の指定状況は、
○：指定有り
空白：指定無しとした。(14～15欄)

環境基準の類型指定延長は、上下車線別に求め、その合計を2で除した。(18欄)
環境対策設置延長は、上下車線別に設置された延長の合計となっている。(24～29欄)
遮音壁高さ(30欄)は測定地点における値のため、設置延長の有無にかかわらず「－」と表記される区間もある。

舗装種別は以下に示すとおり(23欄)
密粒As：密粒アスファルト
排水性As：排水性アスファルト
その他As：その他のアスファルト
コンクリート：コンクリート
その他：その他

沿道建物の状況は以下のとおり(39～40欄)
両側：両側に建物がある
測定側：測定側のみ建物がある
反対側：測定点の反対側のみ建物がある
無：両側とも建物がない
不明：不明

調査種別番号(41欄)は以下のとおり
1：平成17年度実測
5：前年度データを補完

対策予定記載方法

環境施設対設置延長(25～29欄)は以下のとおり記載する。

環境施設帯：小数点以下2桁を四捨五入
遮音壁：小数点以下2桁を四捨五入
種別：通常の場合は入力不要。新型遮音壁の場合は、できるだけ詳しく種別を入力。
「新型遮音壁」は不可。(例)ASE遮音壁

高さ：四捨五入により整数とする。
高架裏面吸音板：小数点以下2桁を四捨五入
低騒音舗装：延長の考え方は右図参照。少数2桁を四捨五入
低層遮音壁：小数点以下2桁を四捨五入
その他：小数点以下2桁を四捨五入

延長 = $\frac{\text{延べ延長}}{\text{車線数}} = \frac{50 + 40 + 30}{3} = 40\text{m}$

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
事務所 コード	路線名	地点名	No.			環境基準 超過・非超過		要請限度 超過・非超過		騒音レベル (dB)		車 線 数	測定地点 の 指定状況	測定位置 情報	区 間 延 長 (km)	環境 基準の 類型指 定延長 (km)	評価 延長 (km)	沿 道 状 況	道路条件			環境対策設置延長(km) 現況 H17調査時 [片側換算]						遮音 壁 高さ (m)	評価対象地域内環境対策設置延長(km) 現況 H17調査時 [片側換算]						併設道路		沿道建物		測定データ		
			都道府 県支庁 指定市 コード	調査 単位 区間 番号	区間 内 番号	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間 Leq	夜間 Leq		環境 基準 類型	騒音 規制 区域					測定点側 の車道 中央との 距離 (m)	道路 敷幅 (m)	道路 形態	舗装 種別	環境 施設 帯	遮 音 壁	高架 裏面 吸音 板	低 騒音 舗装	新型 遮音 壁		低層 遮音 壁	環境 施設 帯	遮 音 壁	高架 裏面 吸音 板	低 騒音 舗装	新型 遮音 壁	低層 遮音 壁	併設 道路 の有無	道 路 形 態	測定点 背後 反射物 の有無	沿道 建物の 状況	調査 種別 番号	実測 調査 年度
03	一般国道17号	群馬県藤岡市立石969-1	10000	1001	1	×	×	×	×	76	75	4	○	○	7.5	0.3	0.30	平地部	20	平面	密粒As	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	無	-	無	無	5	2001